

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービス みらい伊丹車塚			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 3日		～	2025年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21 人	(回答者数)	18人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 3日		～	2025年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 人	(回答者数)	8 人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 12月 16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	指定基準以上の職員配置をしている。こどもの利用人数にあわせて、児童が安心して活動できるように職員の配置人数を決めている。	・大人の目が多いので、何かあったら子どもに寄り添えるように心がけている。	・支援者との会話ややりとりを楽しむだけでなく、こども同士の関わりを増やせるようにする。
2	同法人内の三事業所で年二回の音楽イベントを開催し、子ども同士の交流の場を設けている。	ビンゴ大会やゲームなど楽しい催し物も取り入れている。	こどもが興味関心のある曲をリストアップしている。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどもの来所時間がそれぞれ異なっているので、遊んでいる子と学習をしている子の時間が重なり、学習をしている子に影響を及ぼす時がある。	こどもにはルーティーンがあり、同じ時間に学習を合わせることが難しい。	先に学習が終わったこどもには、静かに取り組めるカードゲームや製作などの遊びや活動を工夫する。
2	職員の勤務時間により支援開始前、終了後に全員で参加できていない。	職員の勤務時間がばらばらである。	参加していない職員のために情報交換ノートを活用して、情報共有がされている。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス みらい伊丹車塚

公表日 2026年 2月 10日

利用児童数 2025年12月1日 現在 21人

回収数 18人

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	1	0	6	・人数に対してそうなのは見ることがないのでわかりません。 ・新しい場所に転移したためわからない。 ・学習中、学習後のペースは双方ともに十分であると思います	2025年11月に野間1丁目に移転しました。児童一人当たりの床面積の基準を満たし、移転前よりもゆとりと活動できるスペースを確保しています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	13	0	0	5	・人数に対してそうなのは見ることがないのでわかりません。 ・活動時、送迎時共に適切であると思います。	指定基準以上の職員配置をしています。こどもの利用人数にあわせて、児童が安心して活動できるように職員の配置人数を決めています。多めの職員できめ細やかに見れています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	0	0	7	・活動に応じた空間は子どもにも分かりやすく受け入れやすくなされていると思います。	今のところ改善の必要はありませんが、今後必要に応じて可能な範囲で対応していきたいと考えています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11	0	0	5	過ごしやすい環境であると思います。	今後も引き続き、安心安全に過ごせるよう、心地よい空間作りをしています。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16	0	0	2	理解して寄り添っています。	保育士や教育関係者、福祉士など専門的な知識を持った人材が在籍しています。今後も子どもの特性を十分に理解し、発達段階やニーズに合わせて適切なアプローチをしています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17	1	0	0		安心で安全できる居場所を提供し、自然な形でソーシャルスキルが身に付くよう支援しています。また、一人ひとりの個性を大切に、たくさんの成功体験で「できる喜び」を感じられるよう支援しています。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17	1	0	0	子どもへの理解と課題が成されていると思います。	今後も保護者様とこどものニーズや、課題に寄り添った個別支援計画作成を心がけていきます。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18	0	0	0	いつも細やかな支援内容で子どもにも寄り添って頂いています。	放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」で示す内容からこどもの支援に必要な項目を適切に設定し、その上で具体的な支援内容を設定しています。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16	0	0	2		今後も今まで以上に支援計画に沿った支援が行えるよう、支援内容を協働していきます。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	3	0	3	学習面、集団遊びなどバリエーションをつけて下さっていると感じます。	同じプログラムでも少しアレンジしたり、こどもの興味がある事柄や季節に沿ったイベントを実施したりして、活動プログラムが固定化しないように工夫しています。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	1	3	9		交流の計画はありません。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16	0	0	2		今後も分かりやすく丁寧な説明を心がけていきます。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17	0	0	1	面談後、計画書の確認の順で丁寧に設定されています。	計画書をお渡しするときに訂正や加筆箇所があれば確認しています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17	0	0	1	定期的にペアレントトレーニングが実施されています。	ペアレントトレーニングトレーナーの資格がある当事業所の職員が実施しています。年数回実施しています。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	17	1	0	0	連絡帳、面談、送迎時などの伝達で理解は高められてと感じます。	個別面談・日々の連絡帳や電話で聞き取り、共通理解を図っています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16	1	0	1	「○○できるように考えてみます」という感じで一緒に考慮して下さいます。	年2回の面談と、必要に応じて行っています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	1	0	0	家族と同じ愛情を子どもに注いで下さっていると日々感じます。	一人ひとりのこどもの気持ちに寄り添い、保護者様の思いを尊重した支援を心がけています。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	3	1	5	・まだ参加したことがないのでわかりません。 ・交流の会やサマーコンサートなど保護者も笑顔になる機会が作られています。	令和7年度は二回の保護者会の開催を行いました。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	2	0	3	素晴らしく体制は整えられていると思います。	引き続き、保護者様と会話を重ねて信頼関係の構築に努めます。また、相談がしやすい関係性と環境を作り、相談があった場合には、迅速かつ適切に対応をいたします。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14	1	0	3	子どもや保護者との距離も適切で温かな配慮を感じます。	保護者様とは連絡帳や定期的な面談、お迎え時での申し伝えや必要であれば個別での電話連絡で意思疎通を図るようにしています。言葉での情報よりも視覚的な情報の方が理解しやすい子どもには絵カードや写真などで対応しています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	13	1	0	4		今後も積極的に活動の様子をブログなどで発信していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15	0	0	1		今後も徹底して個人情報の保護に努めます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17	0	0	1	訓練後にもお知らせがあり安心安全を感じられます。	全てのマニュアルを作成するとともに研修を行っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16	1	0	1		年3回の防災学習を行っています。 保護者様にも分かりやすく訓練の実施報告や内容をお知らせしています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16	0	0	2		今後も安全確保に努め、研修などに取り組みます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	0	0	1	小さな事も送り頂いた際にご丁寧に伝達して下さいます。	今後も安心して通所していただけるように事故発生時マニュアルを熟知し、研修に取り組みます。また、事故発生時には、迅速に行動ができるよう心がけます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18	0	0	0	安心感と和んでいる気持ちが伝わっています。	今後も安全・安心で楽しさいっぱいの居場所づくりに努めていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17	1	0	0	・高学年になり、デイ以外の事にも興味がでてきてデイが嫌という訳ではないが、デイの日を他の事に使いたがる時が増えてきた。	具体的に何に興味を持っているのかを理解しよくと努め、本人の気持ちを尊重することが大切です。利用中のサービスと、興味のある活動と両立できるのが相談支援専門員に相談し適切なサービスのアドバイスをもらいましょう。
	29	事業所の支援に満足していますか。	17	1	0	0	日々、感謝の気持ちで一杯です。	今後もお子さまはもちろんご家族様との信頼関係を大切にしながら、安心してご利用頂けるよう、おひとりおひとりに丁寧に向き合っていきたいと思っています。 今後何かありましたら、アンケートの期間だけでなく、いつでもご質問ご相談ください。 改善に繋げていきたいと思っています。 アンケートのご協力、誠にありがとうございました。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後デイサービス みらい伊丹車塚		2026年 2月 10日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	2025年11月に野間1丁目に移転した。児童一人当たりの床面積の基準を満たし移転前よりもゆったりと活動できるスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	8	0	指定基準以上の職員配置をしている。子どもの利用人数にあわせて、児童が安心して活動できるように職員の配置人数を決めている。多めの職員できめ細やかに見れている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	視覚で子どもも大人もわかりやすい構造になっている。2階スペースですが階段には手すりを備え付けるなどの配慮もしている。1階は多目的室になっており、必要に応じて利用が可能となっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	毎日の掃除に加え、月1から2回の衛生・安全点検を行っている。清潔な空間になるよう心がけている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	個別の部屋ではないが多目的室を設けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0	広く職員が参画できるように毎週ミーティングが実施されている。	今後もチームごと及び職員全体のミーティングの時間を設けていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	アンケート配布を行い、集計して評価表での意向確認を行い、それをもとに業務の改善に努めています。	毎年アンケート配布を行い、保護者の意見に基づいて、業務改善をしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	日頃から風通しの良い環境を心がけ、気付いた時に話し合える環境を作る事に努めている。	意見を反映させて、業務改善に努めていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	3		第三者による外部評価は行っていない。行政書士や社会保険労務士など、専門の方の助言を受けている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	内部研修、及び、外部研修を設定している。月1回様々な研修を開催し、受講している。	今後、より広い内容で研修の機会を設けたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	ホームページやSNSにて、子どもたちにどのような支援をしているかを公表している。支援プログラムを作成し、保護者にはLINE、ホームページで公表している。	今後も支援プログラムの作成を継続し、保護者にお知らせをする。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	子ども、及び、保護者のニーズや課題を把握して支援計画を作成している。担当職員がアセスメントを行い、保護者と面談し、ニーズや課題を考えて支援計画を作成している。	保護者との面談内容に基づいて、支援計画を作成する。また、担当職員と子どもたちの課題について話し合う。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	モニタリングを行い、課題などを共有している。	支援計画会議を定期的に行い、保護者との面談の内容を職員間で情報共有をして、支援計画の作成を進めていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	日々計画に沿った支援が行えているか活動記録に支援計画がすぐに見られるよう記載し工夫している。	支援計画の内容を職員間の情報共有を徹底し、子どもたちの支援を行う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	全員ではないが、希望のあった利用者には検査を実施し、アセスメントに役立てている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	面談などを行いながら、子どもに合った具体的な支援内容を設定している。5領域も含まれた具体的な支援内容が設定されている。	支援計画、日々の活動記録を確認し、有効活用して支援を行う。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	一週間おきに内容を変えたり、その日に来所している子どもの様子などから内容を臨機応変に工夫したりして変える事もある。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	個別と集団を適宜組み合わせ常に子どもの最善を検討されている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	職員の勤務時間により全員で参加できないがその日に合ったことを話している。参加していない職員のために情報交換ノートを活用して、情報共有がされている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	職員の勤務時間により全員で参加できないがその日に合ったことを話している。参加していない職員のために情報交換ノートを活用して、情報共有がされている。	気づいたことを話しやすい環境作りをする。 気づいたことや情報共有することは、全職員が情報交換ノートを活用する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	記録を書き、良くなるように繋げている。	日々の記録を確認して、支援できるようにする。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	モニタリングを行い、子どもに合う計画を見直している。 モニタリング用紙を配布、回収の徹底により、適切な見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0	自分で「やりたいこと」を選び、リラックスできる環境を整えたり、イベント（音楽）の機会を設けたりしている。また、アイロンビーズや季節の製作など子どもに応じて支援している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	子どもたちがしたいことや欲しいことを選んでもらい、伝えられるようにしている。	子どもたちが自分のやりたいことが伝えられやすいように、選択肢を用意する等工夫していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	子どものことを理解している職員が参画している。（保育所等訪問や相談支援機関との会議等）	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	3	学校や障害福祉と連携を取るようにしている。	今後も各関係機関と連携を取りながら、支援をしていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	送迎する時の場所等、連絡を行っている。 送迎の時に担任の先生に情報共有している。 月間予定表の交換、子どもの下校時間の確認等を適切に行っている。	学校との連絡調整を行い、職員間で情報共有を徹底する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	3	依頼があれば、書面で情報提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	1	連携を取り、研修なども受けている。	外部研修は今後も継続していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3		実施の予定はなし。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	2	児発管のスタッフが参加している。	今後も協議会の案内があれば、積極的に参加するようにする。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	連絡帳などを通して、適宜情報共有をしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	定期的に、ペアレントトレーニングやアンガーマネジメントの機会を提供している。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	初回、契約時に担当者が説明している。	契約時に説明を丁寧に行う。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	保護者の意見を聞き、意向を確認している。 面談や日々の保護者とのやりとりの中で意向を確認する機会がある。	面談等を通して、保護者の意向を確認していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	児発管が支援計画の内容を説明し、保護者から同意を得ている。	支援計画の内容を丁寧に説明し、保護者の同意を得るようにする。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	保護者から申し出があったら、速やかに対応できるよう心がけている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	0	令和7年度は二回の保護者会の開催を行った。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	苦情があった時対応できることに関しては迅速に対応している。	今後も苦情があれば、速やかかつ適切に対応していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	かわら版、ホームページ、SNSで活動や行事を発信している。	今後もSNS等を駆使して、日々の活動や行事を発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	個人情報の取り扱いには、十分に留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	視覚や指差しなどで、伝えられるように配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3		実施の予定はなし。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	定期的に災害に関する訓練を行い、もしもの時に備えている。(防災袋等)月に1回研修を行っている。	マニュアルがどこにあるかを把握し、取り出しやすい位置に置いておく。 定期的に災害に関する訓練、研修を継続していく。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	避難場所を確認し、訓練を行っている。 外部講師を招いてAED、救命講習を行っている。 集団活動で非常災害時の時は、どうしたらよいか子どもたちに伝えている。	地震・水害・火災等、年に2～3回ほど災害に関する訓練・研修は継続して行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1	入所時に必ず確認をしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	入所時に必ず確認をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	危険なところがないかを確認し、改善している。	日頃から安全面を考慮していく。危険を感じた時は、状況報告をし、速やかに改善できるようにしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	どのような活動をしているのか、共有できるようにしている。	安全に活動できるように、保護者に周知していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハット報告書の回覧、共有により再発防止を検討できている。	ヒヤリハット報告が上がったら、その都度職員間で情報共有し、再発防止を徹底していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	虐待防止委員会を設け、研修を必ず行い、虐待防止できるようにしている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	対象の子どもはいないが、マニュアルは策定している。	虐待防止の研修で学んだことを生かして、子どもたちを支援していく。